

2021年(令和3年)

第17号

(10月1日)

平安だより

HEIAN letter

発行所：立正佼成会 京都教会

発行責任者：渉外部長 田中規之

編集委員長：渉外広報 植田恭司

〒605-0041 京都市東山区三条東町 230

TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

今月のことば ～原点に帰ろう～ 京南支部 山田恵世

「佼成」10月号のお役を頂きました。京南支部の山田恵世です。よろしくお願ひします。法座の会員さんを通して感じさせて頂いたことを書かせて頂きます。

昨年、ご主人を病気で亡くされたAさんは速夜と百箇日のご供養を佼成会で頂かれ一週間毎に気持ちを整えて行かれるのを感じました。嫁いでおられる二人の娘さん達とお互いを心配し合い、支え合われる中でこれまで気になっていた下の娘さんがとても優しくなり変わられた、と嬉しそうに話して下さい、私も共に喜ばせて頂きました。

長年、ご主人の介護を続けておられるBさんは今年7月に車椅子で暮らし易い住宅に引っ越しをされました。お家の売却、片付けや引っ越しの段取り、市役所等の手続きなど一人で奔走しておられる中、私はこのコロナ禍でなにをさせてもらったらいいのか？と思うものの「私にできることがあったら言ってね」と声をかけることしかできませんでした。

それでもBさんは一つずつ整って行くことを電話で報告して下さい、その中で有り難いと思われたことを伝えて下さり、私の気持ちをほぐして下さいました。娘さん夫婦が相談や片付けなど力になって下さったこと、土地を買って下さった人が長年住まわせて頂いた土地への感謝を教えて下さったこと、そして何よりご主人が引っ越しをとて喜んでおられると聞いた時は安心させて頂きました。予想以上に色々なことが順調に進み、Bさんが教会で放送のお役やお当番、地区で

のご供養のお役など一生懸命積んでこられたお徳を感じずにはいられませんでした。

会員さんから悩み事を投げかけられた時、私はその人のために何が出来るかと思い巡らせてしまいますが、支部長さんにお通しをさせて頂くといつも「即是道場」の精神で私の我を足元の実践に導いて下さり、日常生活で主人を私のものさしで見たり聞いたりしてないか、と見直しさせて頂けるのはとても有り難い事です。

「佼成」10月号のご法話で会長先生は「原点に帰ろう」と題してわかり易く教えて下さっています。私の信仰生活で一番原点に帰らなければならないのは怠りがちな「朝夕のご供養」です。今は意識して実践させて頂いています。

足元では時間はたくさんあるのに予定していたことの半分もできずに落ち込んでしまう日もたびたびでした。しかし今年実施されたパラリンピックで選手の方々の競技を見たり、インタビューを聞いて多くの感動を頂き、体を動かすことが苦手な私は外でも内でもついで動きが多いことに気づきました。一つ一つの動きを大切に動きを増やしていくと気持ちまで穏やかになってきました。

私達夫婦はおかげさまで今年9月に結婚50周年を迎えさせて頂きました。まさに「原点に帰ろう」です。50年を振り返ると、ずっと仏さまのご慈悲を頂きながら一年一年を重ねて来れたことを実感し、感謝と感激で一杯です。ありがとうございました。 合掌

あなたのお仕事を教えて下さい ～京洛支部 青木教郎さん～

Q：仕事先はどちらですか。

A：株式会社タクミサービス

Q：どのような仕事内容ですか。

A：会社全体は総合建物管理（施設管理・設備保守管理・警備）を行っており、私は清掃部門担当です。

Q：過去にはどちらにお勤めでしたか。

A：前職は織織関係のデザインをしていました。師匠の所へ弟子入りし、兄弟、弟子と寝食を共にしながら10年以上修行させて頂きました。常に師匠からは雑にならない様に丁寧を心掛けてやりなさいとご指導を頂いてやってまいりました。その後、

独立させて頂き、40年以上この仕事に携わってきました。

Q：仕事中心に心掛けていることがあれば教えて下さい。

A：現職で気を付けているのは、今、大学で仕事をさせて頂いていますが、コロナ禍のためオンライン授業で学生達は来ていません。コロナ禍が終息して安心して学生生活が戻る事が出来るようにと、毎日真心で仕事に励んでいます。今の自分が元気でいられるのも、たくさんの方々のお陰だと思ひます。何事にもコツコツありがたく感謝していきたいと思ひます。

令和3年、私たちは「どこでも道場 祈り祈られ 笑顔と涙によりそおう」を実践して参ります。

京都教会のホームページが出来ました。https://rkk-kyoto.jp/